

宇都宮市教育委員会「学校教育制度に関する懇談会」で考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 年が押し迫ってきましたね。2006年12月21日・木曜日の午後2時から4時過ぎまで、宇都宮市の教育委員会で「学校教育制度に関する懇談会」が開かれました。今回は第2回目で、第1回は10月5日にありました。
3. この懇談会は、宇都宮市教育委員会から「宇都宮市の学校教育制度をこれからどのように改革したらよいか」という諮問を受けて開催されているものです。全部で20名の委員が選任されました。私もその一人に加えさせていただきました。委員長さんは、宇都宮大学の名誉教授で、放送大学の栃木センターの所長でもいらっしゃる太田周先生(現在は作新学院大学学長)です。懇談会では約2年間審議を重ね、宇都宮市のこれからの学校教育制度をどのようにするかについて提案を出すことになっています。
4. そこで今日は、懇談会で話し合われた内容について紹介させていただきます。まずは宇都宮市の小学校・中学校の教育の問題点を議論し、次にその解決を図るためにはこれからどのようにしたらよいかを話し合いました。話し合いでは、小学校と中学校を一緒にしたい・接合といいですか、関係をよくしながら子どもたちの教育をよりよいものにしたいといった観点からの議論が多かったようです。
5. 私が意見として述べさせていただいたのは、保育園・幼稚園と小学校との関係、小学校と中学校との関係、中学校と高校との関係をもっとよくしたらどうかということです。教育で最も大切なことのひとつはカリキュラムの質、つまり教育の中身、内容ですので、保育園・幼稚園の先生方と小学校の先生方は、保育園・幼稚園の年長クラスのカリキュラムについてよく話し合い、「ここまでは保育園・幼稚園でやってほしい」ということをもっとお願いしてはどうかと思います。一方で、保育園・幼稚園の側でも「保育園・幼稚園ではここまでやっているのに、小学校では次にこのようなことをしてはどうだろうか」ということを、カリキュラムとして提案するとよいのではないかと思います。小学校6年生と中学校1年生との間でも、また、中学校3年生と高校1年生との間でも同様のことを行い、カリキュラムの上での宇都宮市内の保育園・幼稚園、小学校、中学校、高校の各学校が接合を図るとよいと思います。

6. では、例えば小学校と中学校とのカリキュラム上での接合・先生方の人的交流をどのように促進したらよいかということで最も現実的な科目の一つは、英語であると思います。具体的には、中学校の英語の先生が小学校 5・6 年生の英語の授業を受け持つというのが現実的な手法ではないでしょうか。
7. 現実的には、小学校の先生は、英語の先生としての教育を受けてその資格を持ち、小学校の先生になったわけではありません。言い方をかえれば、英語教育については小学校の先生はほとんど素人です。ピアノの弾けない人がピアノを教えるのと同じように、また、泳げない人が水泳を教えるのと同じように、小学校の学級担任だからといって英語の授業を持つとなると、教育的な成果はあまり期待できないのではないのでしょうか。それよりは、資格を持っている中学校の英語の先生方に小学校の授業を週に 1 回でも 2 回でも担当していただくのがよいと思います。これが、小学校と中学校との関係をよくするために最も現実的な方法ではないか、また、子どもたちの学力の向上にも繋がるのではないかと考えます。
8. 先生が足りないのであれば、英語の教員資格を持った方は山ほどいらっしゃいますので、その方々に時間講師としてお願いするとよいと思います。そのためには、どのような工夫をしたらよいかを考えることが教育委員会には求められると思います。
9. ところで、栃木県全体ではもちろん、宇都宮市でも最も足りないのは外国人の方々のための学校です。外国から来られて日本で生活するの方々には、日本語の教育が必要です。しかし、現在の状況では 1 週間に何回かしか行われていませんので、少し足りないような気がします。
10. 日本語教育の中には、「生活日本語」、学校の授業についていける「学習日本語」、中学校を終えて高校に進む際に控えている入学試験に対応できる「受験日本語」、この 3 つの教育があると私は考えます。
11. 日本の社会においては、中学校 3 年生が終わるまでに入学試験に対応できる「受験日本語」までを身に付けないと、高校以上の学校に進もうとするときに選択肢が狭まってしまいます。ですから、保育園・幼稚園から始まって小学校、中学校に日本語教育を担えるボランティアの先生方を配置し、また、何か所かの園や学校の中に 1 か所でもよいですから専用のクラスを作って、しっかりとしたカリキュラムを組んだ上で本格的な 3 つの日本語教育を行っていただきたいと思います。これは、宇都宮市だけでなく、どこの市町でも必要ですので、栃木県中で行っていただきたいと思います。
12. それから、外国の企業や外国人の方々に日本で活躍していただきたいと思います。栃木県も素晴らしいところですので、外国の企業や外国の方々に仕事をするためにぜひ来ていただきたいと思います。そのときには家族の方々も一緒のことが多いですので、インターナショナル・スクールを開設していただければと思います。
13. 現実的にはインターナショナル・スクールは学費が非常に高く、先日お聞きしたところによると 4 か月で 6000 ドル、約 70 万円かかるそうです。首都圏では年間 200 万円以上支払わないとインターナショナル・スクールにはなかなか通えないようです。あまりにも高すぎるのが、日本に来る外

国の企業の方が少ないという原因の 1 つになっているようです。ですから、宇都宮市では廃校(廃止された学校)や使っていない校舎等を利用して保育園料と同額ぐらいで通えるインターナショナル・スクールを作っただけだと有難いと思います。

14. 私は、以上のようなことを懇談会でお願いするために意見として述べさせていただきました。

15. 今日は、12 月 21 日に宇都宮市の教育委員会で開かれた「学校教育制度に関する懇談会」での模様をお話させていただきました。皆様にもぜひお考えいただければと思います。

どうかよいお年をお迎え下さい。

[コメント]

6 年前に 2 年間にわたって開催されたこの懇談会での議論・提言を踏まえて、宇都宮市では大規模な教育改革が行われているようだ。太田先生はじめ関係者に敬意を表したい。

— 2013 年 2 月 8 日 林 明夫 —